

授業科目名: サステナビリティ研究先端演習Ⅳ	単位数 1単位	担当教員名: 専任教員 担当形態: 共同
配当年次: 2年次前期・2年次後期	授業形態: 演習	開講形態: 集中
授業のテーマ及び到達目標: <p>「協働分野セミナーⅣ」を通じて、受講生自らが実施している研究の進捗状況の発表・質疑応答を実践する演習を行う。エビデンスに基づいた論理性のあるコンテキスト化、調整力及びプレゼンテーション技法を向上させ、実践できることを目標とする。</p>		
授業の概要: <p>2年次学生と本共同専攻教員の全員参加を原則とする文理協働コロキウムを開催し、博士論文の進捗状況(研究成果を含む)及び実施したインターンシップ内容を含めた公開報告と討議を行う。なお、博士論文の進捗内容の報告とその質疑応答は、博士論中間報審査を兼ねるものとする。また、コロキウムにおいては、適宜、研究倫理に関する講習を行う。</p>		
授業計画: <p>文理協働コロキウムを集中形式で開催する。文理協働コロキウムでは、博士論文の進捗内容の報告(研究成果含む)及び実施したインターンシップ内容を報告するとともに、その報告に対して幅広い観点から質疑応答を行う。各学生は、「協働分野セミナーⅣ」を通じて得られた「理解・分析・実装」各相の知見及び成果を自身の研究の進捗状況に盛り込むことが求められる。</p> <p>本演習は2回に分けて集中開講する。1回目のコロキウムは新学期開始直後に実施し、学生の博士論文研究の進捗状況(研究成果を含む)及び今後の計画に関して報告、質疑応答を行う。2回目のコロキウムは後期の科目履修の終了後に実施し、博士論文について報告、質疑応答を行う。1回目のコロキウムは博士論中間報審査を兼ねるものし、2回目のコロキウムは1回目のコロキウムの追加審査会と位置づけられる。</p> <p>2回のコロキウムにおける各学生の報告及び質疑応答は各回、参加教員全員に評価される。また他の学生の報告に対する質問等、演習での参加度も評価の加点の対象になる。各評価の集計結果により単位付与が決定される。また他の学生の報告に対する質問等、演習での参加度も評価の加点の対象になる。各評価の集計結果により単位付与が決定される。</p> <p>本共同専攻の各教員の専門分野は以下のとおりである。</p> <p>【東京外国語大学】 (武内進一)地域動態論、アフリカ研究、国際関係論、紛争 (中山智香子)グローバルスタディーズ、社会経済学、社会経済思想、経済史、経済人類学 (李孝徳)カルチュラル・スタディーズ、表象文化論、ポストコロニアル理論</p> <p>【東京農工大学】 (千年篤)国際農業開発、農業発展論、農業経済学、所得格差、貧困 (野村義宏)生物資源機能化学、コラーゲン、ケラチン、機能性食品</p>		

(香取浩子)エネルギー科学、磁性体における相転移現象、局在スピン系磁性、遍歴電子系磁性

(三沢和彦)生体医用システム、超高速フォトニクス、超高速時間分解分光、非線形光学

【電気通信大学】

(山本佳世子)社会システム工学、空間情報科学、都市・地域計画学、GIS ビッグデータ、環境・防災

(橋山智訓)知能情報学、ソフトコンピューティング、ヒューマンインタフェース・インタラクション

(横井浩史)計測・制御、節電義手、節電センサー、サイバネティクス、臨床応用

(岡田佳子)光工学、光エレクトロニクス、バイオエレクトロニクス、ナノフォトニクス

テキスト:特になし

参考書・参考資料等:特になし

学生に対する評価:達成成果、報告内容、質疑応答、討議への参加等により総合的に評価する。